



キャベツひと玉の
値段に敏感でありたい

目黒区議会議員
橋本しょうへい
区政レポート



Facebook
(公式)



Twitter

Vol. 14
2020.10.29 発行

橋本しょうへい事務所
〒153-0052
目黒区祐天寺2-17-3-108
Tel 080-5090-2560
Mail info@shohel.tokyo

来年度の税金、どう使う？ 予算要望

10/13(火)私の
所属する会派
「フォーラム目
黒(立憲民主・
無所属の会)」



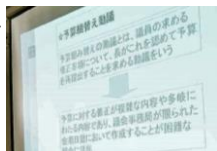
から、来年度の
予算要望を区長へ提出しました。何をどの
ように盛り込むべきか昨年より理解して臨め
たこともあり、私からは

- ・LINE等、情報発信手段の多様化
- ・「書かない窓口」の推進
- ・音声認識による中途失聴・難聴者等の支援
- ・シェアサイクルのポート増設
- ・GIGAスクール構想推進の際の教員負担軽減の5点を会派の予算要望に盛り込むことができました。特に情報や通信の技術については以前にも触れましたが、役所での手続きは先進的な自治体がたくさんあります。行政改革の視点でも利用者目線でも、よりよい目黒区になるよう、引き続き働きかけていきます。また会派としてはコロナウイルス感染症対策として

- ・消毒作業に追われる教員の負担軽減(シルバー人材センターの活用)
- ・子どものインフルエンザワクチンに対する費用助成

勉強会ぎっしり。意外と知らない議員の権限

10/22(木)~23(金)2日続けての勉強会、議員や議会の役割の再確認です。初日は学識経験者による基礎的な内容が中心でしたが、2日目は全国市議会議長会で法制参事の経験がある方が講師。知識も経験もある方のお話はとても勉強になります。会派



ちょっと物騒な内容...

届いていますか？子育て情報

月3回、5のつく日に発行の「めぐろ区報」。10/25(日)発行の2082号には来年度の学童保育クラブの募集(対象は来年度から6年生までに拡大)について、10/15(木)発行の2081号には保育施設等の利用申し込みのご案内も掲載されました。でもこの「めぐろ区報」のほとんどは新聞折込みで届けられており、目黒区世論調査によると紙の新聞を定期購読していないかたが多い20~30代の半数以上が「手にしていない」と答えています。「めぐろ区報」はインターネットで配信されているほか、個別の配送も行なっています(お問い合わせは目黒区広報課まで)。また今年度からは子育てアプリ「母子モ」も導入しています。ぜひご活用ください。



写真AC(ファミリー素材)

など要望したほか、「シティラン」や「新年のつどい」中止など、緊急性が低そうなくつかの事業の延期にも言及しています。景気の落ち込みで来年度以降の予算は厳しくなることが予想される中、役所から議会に予算案が提出される3月に向けて引き続き勉強を重ねていきます。

なのででしょうか、遠方から連れ立っていらっしゃる議員の方も多くいました。議会での手続きにもスポーツと同じようにルールがありますが、そのルールを知ることによって選択肢は広がります。議会や議員の定義や役割とともにこうした選択肢を知ることができ、有意義な2日間になりました。

生活福祉委員会。食中毒、計画改定など6件の報告

カンピロバクター食中毒の発生状況



出典：厚生労働省HP (H28.6.2最終更新)

10/14(水)生活福祉委員会。区内の飲食店で発生した食中毒や、来年度以降の計画改定に対する答申を含め、報告事項は6件ありました。食中毒に関しては、区内の飲食店で鶏の生肉を食べた3名の方が「カンピロバクター」に感染したもので、その飲食店は7日間の営業停止処分。後で調べたデータですが、カンピロバクターによる食中毒は全国で年間2,000人程度が報告されています。また委員会での質疑の中では、東京都の調査によると鶏等の生の肉の危険性を知っていても「食いたい」と考える方が約6割とのこと。牛や豚と違って生食の文化が根強く残っていることから、政府は禁止していないそうです。まれに手足の麻痺や呼吸困難を起こすこともあるので、肉類は鮮度に関わらず、**中まで75度で1分以上の加熱を!**

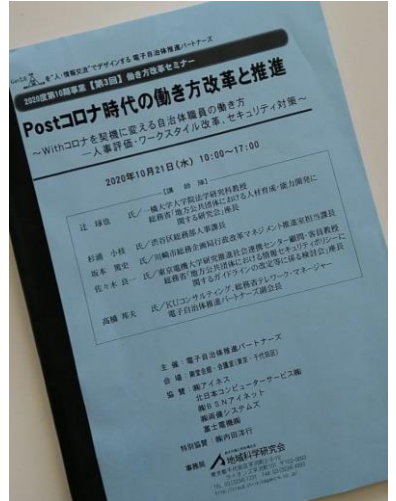
また各種の計画改定ですが、今年度は3年計画である保健医療福祉計画、介護保険事業計画、障害者計画の改定時期になっています。保健医療福祉計画に関しては、国の「重層的支援体制整備事業」についての記載もありました。高齢、障害、生活困窮、子育てといった分野を超えた支援体制を構築する先駆的な自治体に国が補助金を出す制度ですが、実施するには強いリーダーシップや創意工夫が求められます。厚生労働省が目黒区の「福祉相談窓口」に興味を持ったとのことですが、

8/21(金)に私が参加した勉強会で厚生労働省の方に質問をした際、目黒区の福



Postコロナ、これからの役所はどう変わる?

10/21(水)行政関係者やその取引先のかたも対象にした勉強会に参加しました。目黒区でも、このコロナ禍をきっかけにテレワークやデジタル化が急速に進み始めています。今回知った先進的な例として、福岡市が開設しているLINEの



働き方改革やICT化のヒントが満載!

アカウントは友達登録数が167万人。子育て情報も避難所へのルートも、道路の不具合の連絡も、果ては粗大ごみの申請から支払い(しかもキャッシュレス!)まで、手元のスマホで完結できる優れモノ。もちろん職員が対応すべき複雑な業務もありますが、様々な問い合わせは電話をかけることなく24時間自動で、瞬時に答えが返ってきます。チャットボット(人工知能を活用した自動会話プログラム)は目黒区でも導入に向けて研究中とのこと。コロナ禍でのLINEアカウントはイマイチでしたが、今後に期待したいです。

社総合窓口について言及したのを思い出しました(もしかして、これが発端だったのでしょうか?)。うまく進めることができれば、目黒区が国から新たに補助金を確保することができます。財政が厳しくなる目黒区や、困難を抱えるかたへの一助となれるよう、今後も議論を尽くしていきます。11月に計画の素案が決定され、**12~1月にパブリックコメント**を実施予定です。ご意見のある方はその機会にぜひ、目黒区広報課、または私、橋本まで、様々なご意見を頂けたら幸いです。

目黒区議会議員 橋本しょうへい プロフィール

1989(平成元年)年6月6日神奈川県生まれ 埼玉県立熊谷高等学校、明治大学政治経済学部卒 (株)ダイエーを経て手塚よしお秘書 2019(令和元年)年目黒区議会初当選 双子の兄弟
 <所属>生活福祉委員会、目黒区国民健康保険事業の運営に関する協議会ほか
 <趣味>自転車、空手(和道流、松濤館)、スキー <好きな言葉>温厚篤実、一意専心
 <好きなもの>みかん、麻婆豆腐、クラフトビール <特技>手話